

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科(昼間部)		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	補聴器・人工内耳Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	後期 木曜1, 2限	教室名	4校舎402
担 当 教 員	西岡隼基	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
聴覚分野には必ずついてくる「補聴器・人工内耳」についての知識を深め、リハビリテーションを行うものとして必要な検査、訓練、および心構えを学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験(筆記)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版(医学書院)						
《授業外における学習方法》						
予習及び復習を行うことが望ましい。						
《履修に当たっての留意点》						
補聴器・人工内耳は、患者が生活の一部として使用してゆく機器を用いたリハビリテーションとなり、機器そのものの知識についても深く知っていくことが重要である。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	補聴器の種類と特徴を理解し説明できる	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	耳穴形、耳かけ形、各々の種類の部品位置・構造			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	補聴器の音響特性について理解し説明できる	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	最大音響利得、最大出力音圧レベル、規準周波数レスポンス			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	補聴器の加工について理解し説明できる	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	イヤモールド、音道、ダンパー、ベント			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	補聴器の機能について理解し説明できる	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	最大音響利得、最大出力音圧レベル、規準周波数レスポンス			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	補聴器の加工について理解し説明できる	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	ハンリニア増幅、マルチチャンネル、雑音抑制、ハウリング抑制			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 成人の補聴器適応までの流れを理解し説明できる	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を 通読しておくこと
		各コマにおける 授業予定 事前検査、機種選択、耳型採型、フィッティング		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 補聴器の適合検査について理解し説明できる	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を 通読しておくこと
		各コマにおける 授業予定 語音明瞭度測定、環境騒音の許容を指標とした適合評価		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 乳幼児の補聴器適合評価について理解し説明できる	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を 通読しておくこと
		各コマにおける 授業予定 装用耳・器種の選択、周波数特性と利得、装用状態		
第9回		授業を通じての到達目標		
		各コマにおける 授業予定		
第10回		授業を通じての到達目標		
		各コマにおける 授業予定		
第11回		授業を通じての到達目標		
		各コマにおける 授業予定		
第12回		授業を通じての到達目標		
		各コマにおける 授業予定		
第13回		授業を通じての到達目標		
		各コマにおける 授業予定		
第14回		授業を通じての到達目標		
		各コマにおける 授業予定		
第15回		授業を通じての到達目標		
		各コマにおける 授業予定		